



国際ロータリー 第2660地区

2014-2015年度

2015

八尾ロータリークラブ会報

3/4

vol.54 No.33

国際ロータリー テーマ

**ロータリーに輝きを
LIGHT UP ROTARY**

国際ロータリー 会長 ゲイリー・C.K. ホアン

八尾ロータリークラブ テーマ

**ロータリーの心を実践し
人間力を高めよう**

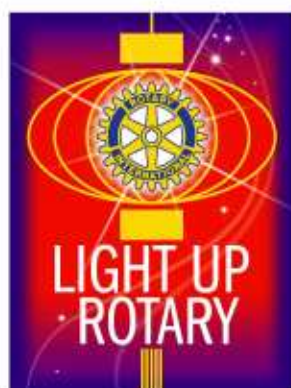
会長 中川 将

国際ロータリー 第2660地区 テーマ

**ひとりひとりの輝きで、
あなたの地域を輝かそう**

LIGHT UP YAO

国際ロータリー 第2660地区 ガバナー 泉 博朗



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか



八尾RCバナーの主旨

「我々のクラブは、老いも若きも
相手を敬愛し、和気あいあい、
楽しいクラブライフを送っている
ことが誇りであります」

第2621回 例会 プログラム

▼開 会「点 鐘」

▼ロータリーソング

「国歌」「奉仕の理想」

▼ゲストの紹介

▼出席報告

▼在籍表彰

会員年次表彰

在籍18年 中川廣次会員

在籍 9年 松井良介会員

▼お誕生日お祝い

3/2 山本義治会員

3/10 中谷武男会員

3/11 佐野 清会員

澁谷登志和会員

3/22 柏木武生宜会員

▼ロータリーの友紹介

出席委員会・坂本憲治副委員長

▼米山奨学金贈呈

▼その他の報告

▼会務報告

「会長の時間」「幹事の時間」

▼SAA報告 ニコニコ箱

▼卓 話

「心の動体視力」桃木夏彦様

▼閉 会「点 鐘」

▼卓話予告

3/11 「インターアクト活動報告」

金光八尾高校インターアクト

クラブ顧問 前田裕子先生

3/18 「これからの八尾」

田中誠太様

会長の時間

本日は新聞の投書欄から紹介します。

私たち夫婦は結婚して40年数年。妻の顔
が見られない時間が寂しくて仕方ありません。

もう一度、同じ部屋で眠りたいのです。私は
60歳で退職し、古希も過ぎました。現役時
代は力一杯、家庭のため馬車馬のように働
く仕事人間でしたが、今はパソコンに向かっ
たりして過ごしています。

一方、自営業の妻は70歳になっても現役
で、毎日楽しそうに仕事場に向かいます。
一人家にいる私は妻の「ただいま!」の声
を聞くと、心が晴れあがります。昔は妻と二
人で海外旅行に出かけましたが、現在妻は
私を残して女友達と海外旅行に行ってしまう
のです。新婚時代は手を握り、語り合いな
がら寝たものでした。それが5~6年前から
別室になりました。理由は分かりません。

回答:仕事一筋で家族を支えて来られ、家
族のぬくもりが欲しいと言う時に、連れ合い
さんとすれ違いの日々ですね。どれほど不
安でしょう。現役の連れ合いさんは、気持ち

八尾ロータリークラブ 2014-2015年度 会長 中川 将 幹事 吉本 憲司

事務局 八尾市清水町1-1-6 八尾商工会議所2F

TEL 072-991-2129 FAX 072-924-0010

URL www.yaorc.com E-mail info@yaorc.com

例会日 毎週水曜日 午後0時30分~午後1時30分

例会場 八尾商工会議所3F

創 立 1961(昭和36)年3月28日

が外に向いているのでしょう。そんな状態であなたが訴えても難しい気がします。そこであなたは「下り坂の景色」を楽しみませんか。あなたの人生は「上り坂」だったのではないのでしょうか。今の空虚感を味わうことで「私の人生は何か」と考えるきっかけをいただいているのです。人生は下ることで、今まで見えなかった足元の景色を味わえるのです。

インドには人生を4つの時期に区切る四住期の考え方があります。一つ目が社会に出るために学ぶがくしょう期、二つ目が働いて家族を中心に生きる家住期。50歳位までと考えるといいでしょう。自分をゆったり振り返るのが、次の林住期。がむしゃらに働く状況から解放され、今まで気にも留めなかった自然の中で、改めて「生かされている命」であると実感する時期です。最後に遊行期こそが最も大切な時期です。晩年は遊べと言ふ意味ではなく、力を抜くと言ふ事です。「思い通りにしたい」と言う捨てて行く、心の自立の時期ではないかと私は思うのです。

連れ合いさんとの問題で、人生は順調な時期ばかりではないと知らされているのです。「思い通りの上り坂から、あるがままに下ることでもう一度大地に足を着けて」と仏様からのメッセージをいただいている気がしてなりません。連れ合いさんは、やり残した事を後悔なく実行したいのでしょう。どうか見守ってあげて下さい。あなたは今まで外を見ていた分、力を抜き遊び心を持って下り坂の景色を発見しませんか。今まであなたは「役に立つ」事を考えてきました。今後は、多くの御縁で支えられていることを知って下さい。

質問の方は微笑ましいと思いませんか？

幹事報告

▼2/28車椅子バスケットボール・プレ親善交流会が開催されます。

▼2/28金光八尾高校の卒業式が行われます。

濱岡副会長と田中会員に出席いただきます。

▼2/28地区ロータリー財団補助金管理セミナーが開催されます。村本会長エレクトと山本(昌)会員に出席いただきます。

▼2/28地区米山奨学生終了者歓送会、水野カウンセラーにご出席いただきます。

▼3/1大和川・石川クリーン作戦が開催されます。中川会長、井川ガバナー補佐、飯田・新宮・野田・宮川会員に参加いただきます。

その他の報告

▼川田 隆 会員

10月の脳内出血で4ヶ月入院しておりました。その間、皆様にお見舞いやお氣遣いを多数いただきまして、ありがとうございました。ようやく退院できました。クラブ復帰ももちろんですが、まずは会社の事業を立て直していきたいと思っております。

▼野田重夫・社会奉仕担当理事

28日に車椅子バスケの事業を開催します。本日例会後に担当者の説明を行います。素晴らしい事業になるように努力いたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

▼青少年奉仕委員会・

笠井 実 副委員長

3月4日PM6:30から、米山奨学生ミシェルさんの送別会を開催します。ご参加ください。

▼越中八尾担当・

澁谷 登志和 SAA委員長

18日から2日間、越中八尾RCへ公式訪問してまいりました。盛大な歓迎をしていただき、皆様によろしくとのことでした。

▼親睦活動委員会・

高井 榮彌 委員長

4月8日に春の親睦旅行を神戸方面で開催します。理研を見学し、須磨の高級レストランで食事をお楽しみいただきます。多数のご参加をお願いいたします。

卓 話

「日本のこころ」

▼佐野 清 会員

太陽があるから生きている

私たちの先祖が教育で、一番大事にしてきた言葉は「恩」です。恩とは他の人から得られた恵み、いつくしみのこと。恩は「心の素」について教えることであり「心」とは実は「命」のことなのです。私たちは今、生きています。この「命の素」は何か、何のおかげで生きているのか、ということを日本人は2～3,000年も前から非常に大事にしてきたのです。

では、私たちは何の力によって生きているのか。古代、その一番目は太陽と考えました。太陽がなければ地球も存在しません。またドクドク動く心臓も、電池で動いているということが最近分かりました。なんと心臓から脊柱にかけて、太陽電池をとる装置があったのです。ですから太陽がなくなれば、あつと言う間に心臓が止まり、私たちも死んでしまいます。

私たちの民族は感覚的に「太陽があるから生きている」ことを自得し「命の素」つまり恩の第一に太陽を挙げたのです。これは素晴らしいことですね。他にも太陽を大事にした民族はありますが、それはただ太陽を神さまとして拝んだだけで「太陽のおかげで生きている」と考え、そのことを国名にまでしたのは、日本人だけです。そうして1500～1800年ぐらい前から「日の本」を大切にするようになり、西暦600年代には「の」が消えて日本という国名になったのです。素晴らしい国名だと思いませんか。

見る、聞く、触れる、嗅ぐ、そして味わう。こうした生命活動はすべて太陽エネルギーのおかげによるものです。何かを見るにつけ、聞くにつけ「これはみんな太陽さんのおかげだよ」と常に太陽に感謝して生きてきたのが日本人なのです。

自国の名前がこのような哲学から発生した素晴らしい国名であることを今一度、しみじみと考えてみるのも大切ではないでしょうか。

日本人としてのバックボーン

このように素晴らしい国名でも、私たちは外国で「日本人の佐野」とは言いません。例えばアメリカ人の学生は「ジェームズ・イン・アメリカ」というように自己紹介のとき必ず国名を添えます。オリンピック選手のユニフォームも、NIPPONではなくJAPANと書いています。これでは世界が日本を忘れるのではないのでしょうか。

日本の学生とともに研修した外国人の学生は「日本の学生は非常に優秀。ただ残念なことに日本人としてのバックボーンがない」と言います。まさに今日の教育界の現状が、それなのです。

今まで30、40年、私たちは子どもたちに詰め込み教育をやってきました。記憶力を中心の偏差値教育を続けてきました。その結果、どういう人間が育ったのか。思うようにいかないと、すぐにキレてしまいます。思い通りいかないと何を何とかしていく、そこに人間の価値があるし、自分の発展があります。自分が充実していく自己完成などということは、全く教えませんでした。

100年ぐらい前ででしょうか、日本人は全員、毎朝太陽に合掌したものです。「太陽さん、今日一日、よろしく願います。どうかお守りください」と言って。

ラフカディオ・ハーン(1850～1904)という方がいます。父はアイルランド人、母はギリシア人で、彼はギリシアで生まれました。雑誌記者として各国の哲学や人間学を調べるため世界を飛び回っていました。彼は日本の国の起こりが出雲だと知り、松江へ行きました。松江中学で英語の教師をしながら、日本の勉強をしました。民話も勉強しました。

武家屋敷に住む彼は、川で毎朝人が集まりうるさいので「朝から何をやっているのか」と土塀の上から見ると、村人がうがいをしたり顔を洗ったりしていました。やがて東の山から太陽が顔を出すと、全員がそちらを向いて合掌し「太陽さん、ありがとうございます。今日も一日よろしく」と言っていました。

これを見た彼は「こんなに素晴らしい光景を、今までどこの国でも見たことがない。この国民はすごい。私もこの国で生き、この国で死にたい。日本の国民になりたい」と言って小泉八雲と名乗り、日本に永住するのです。彼は怪談「耳なし芳一」「雪女」などの代表作で、明治の文豪となりました。

農耕民族と狩猟民族とは

日本人は農耕民族です。狩猟民族の狩人というのは、目が効かねばいけません。クマ、シカ、ウサギなど獲物をはっきり見定めて狩りをするのです。なぜならクマを射る矢とウサギを射る矢は違うからです。

ところが私たち農耕民族は、狩猟民族とは基本的に考え方が違うのです。狩猟民族の哲学は、突然獲物に出合ったとき、みんなで馬で駆けつけ一番手、二番手、三番手と矢を射る。大きな動物は一矢では無理で、5本ぐらい矢が入らないと倒れません。そのとき注意すべきは、倒れた後に絶対矢を射ってはダメなのです。倒れる時まで射った矢の持ち主だけが、獲物を食べることができるのです。だから何事も迅速。狩猟民族では、行動の遅い者は生きていけないのです。

農耕民族は一方で、大事なことはゆっくりと落ち着いて行います。種蒔き、刈り入れと、時期を見て行います。時期を間違えると、ダメなのです。つまり、ゆっくり落ち着くことが、農耕民族の哲学なのです。

皆さんも子どものころ、おじいさん、おばあさんに「落ち着け」とよく言われましたね。そ

れが今では「早く、早く」です。「学校に行ったら、早く帰ってきなさい」「早く宿題をして、早くご飯を食べ、早く塾に行きなさい」ですね。

農耕民がたとえ懸命に雑草を取っても、ひと嵐来れば全滅です。目標は立てられません。結果はすべて、自然まかせ、太陽まかせです。

「この秋は風か嵐か解からねど、今日のつとめに田の草を取る」この秋は風か嵐がやってきて凶作になるかもしれないけれども、今日の勤めに田の草を取る。今日一日のために生きていくんだよ。それが農耕民族の生き方なのです。

ところで私は歯の器具の仕事をしていますが、日本人と欧米人では歯に対する考え方が違います。日本人と比べ、欧米人は歯を何倍も大切にします。歯ブラシを例にとると使用量や回数、価格は日本人の2～3倍以上です。そして聖書にも「目には目を、歯には歯を、命には命を」と、生きるために歯は絶対視されています。狩猟民族が故です。

その反面、農耕民族の日本人は、歯が全部なくなっても、穀物をお粥にして食べれば死ぬことはありません。

そして「いい加減」というのが、私たちの哲学です。「加」はプラス、「減」はマイナスです。丁度良いところ、これが私たち農耕民族の生き方です。小さいとき皆さんは祖父母から「いい加減にしろ」と言われたでしょう。今は「いい加減じゃダメよ」ですけれども。

現代社会はマイナスが嫌いなようですが、マイナスにも良いところがあるのです。いくらエンジンが良くても、ブレーキが効かねばどうするのでしょうか。エンジンが良くなればなるほど、良いブレーキを付けなければダメなのです。優秀な人間こそ、マイナスの尊さを知っていなければダメだと思います。

一人ひとりが「カミ」である日本人

西洋の神はゴッドで「絶対者」です。従っ

てそのゴッドの聖書に書いてあることを少しでも批判すれば、大変なことになります。最近のイスラム教問題などもそうです。ところが日本の「神」とは、絶対者ではないのです。

私たちの神はどう書いたかと言いますと「日身(カミ)」と書きました。「カ」の元は「カカ」、その前は「カアカア」、その前は「カツカツ」と言ったのです。これらは古代語で、太陽が真っ赤に燃えるような様子を表した擬態語だったのです。つまり「カツカツ・ミ」「カアカア・ミ」「カカ・ミ」とは「太陽のからだ」という意味だったのです。

私たち一人ひとりが、太陽のからだ。先ほど申し上げたように、私たちは太陽電池で生きていますから、ここにおられる皆さん一人ひとりが「カツカツ・ミ」「日身」なのです。日本の「カミ」は、一人の天にまします絶対者ではないのです。これは日本人として、よく胸の中にしまっておいていただきたいのです。

私たち男性は、自分の子どもを産んでくれて、育ててくれて、朝昼晩と飯を作ってくれて、その上女性がいると明るいということで、自分の妻のことを「カミ」に「さん」をつけて「カミさん」と言っていました。さらにそれにも飽き足らないで、その上に「お」までつけて「おかミさん」と言っていました。

そして子どもたちは、この古語をとって「カカさま」と言ったのです。江戸時代まで子どもはお母さんのことを「カカさま」と呼びました。この「カ」が残って「おかあさん」になりました。つまり「カ」は、太陽という意味なのです。

■ 出席報告

月 日	会員数	出席	(内出席規定適用免除者)	出席率	メイクアップ	確定出席率
2/4	57	41	7	87.23%	0	87.23%
2/18	57	35	5	77.78%		
2/25	57	38	8	79.17%		

「お父さん」という言葉は、女性側が「あんたがいるからいろいろ敵が来ても守ってくれるし、一生懸命働いて私たちに食事の材料を与えてくれる。それにもかかわらず私を『カミ』『太陽』と呼んでくれるあなたは、太陽と同様に尊いお方だ」と言ったのです。これを「尊い」「たつ」といあるいは「とう」と言いました。「カカさま」に対して「トトさま」と言ったのです。この「ト」が残って「おとうさん」です。おとうさんの「と」は、尊いという意味なのです。

以上で私の卓話を終わりますが、実はこのお話は「ロータリーの友」2006年6月号に掲載されていました。2005年10月16日に第2770地区の地区大会で講演された内容からの抜粋です。講師は東洋思想の作家、境野勝悟(さかいの・かつのり)氏でした。

私は常に、ロータリーの友から必要な記事を切り取り、スクラップして参考にしています。皆様にもぜひ、お勧めします。

ニ コ ニ コ 箱

▼中川(将)会長 井川ガバナー補佐、濱岡副会長、SAA委員長、越中八尾公式訪問ありがとうございました。佐野会員本日卓話宜しく願い致します。

▼濱岡副会長 佐野様本日の卓話よろしく願い致します。

▼吉本幹事 佐野会員、卓話よろしく願いいたします。

▼佐々木名誉会員 例会欠席お詫び。

▼佐野会員 川田さんようこそ、うれしいです。水野さんありがとうございました。本日の卓話よろしく願いします。

▼居相会員 来週の卓話、桃木夏彦様による「心の動体視力」楽しみにして下さい。ご出席お願いします。

▼中川(廣)・宇野・田中会員 例会欠席お詫び。

▼山本(勝)会員 特にないですが、例会よろしく願いします。

▼井川会員 川田さんお帰りなさい。

▼菅野会員 土曜日のイベントよろしく願いします。川田さんお久しぶり元気な顔をみて安心しました。

▼川田会員 退院してまいりました。皆様ご迷惑をおかけしました。

▼野田会員 2/28(土)車椅子バスケットボール親善交流会会員皆様のご協力よろしくお願い致します。記憶に残る大会にしたいとはりきっています。よろしく願いします。

▼新宮会員 2/28車椅子バスケットボール参加宜しく御願います。

▼山陰会員 本日例会後お茶のケイコです。中西さんよろしく願いします。

▼澁谷・長竹・野村会員 松本さんお世話になりました。

▼松村会員 花粉症になりました。

▼吉田会員 良い事がありました。

▼飯田会員 土曜日の車椅子バスケットボール来場お願いします。川田さんお元気そうで。

本日の合計 79,500円

累 計 2,717,500円

今期の目標 3,500,000円